

にしじ

第3回高知医療センター 緩和ケア研修会

…… P2～P5

9

SEPT.2011 Vol.71

- 第41回高知医療センター職員による学会出張報告
 (第114回 日本小児科学会学術集会 小児科 原田 大輔 医師) …… P6
- 地域医療連携病院のご紹介 Vol.65 (医療法人めばえ さとう循環器消化器科) … P7
- ニュース Vol.25 …… P7
- 高知医療センターイベント情報 …… P8



8月10日(水)、11日(木)に高知医療センターまで踊り子隊(みさと幼稚園、NTT西日本高知支店、高知市役所)がきてくれました!

高知医療センターの基本理念

医療の主人公は患者さん

高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

第3回高知医療センター—緩和ケア研修会

8月6日～7日に当院で行われました第3回高知医療センター緩和ケア研修会の報告をさせていただきます。

緩和ケア研修会は、全てのがん診療に携わる医師が緩和ケアの実践が出来るように、毎年、各拠点病院が最低1回は開催しなければなりません。

高知県では、県とNPO高知緩和ケア協会と各拠点病院が協力して、昨年度までは開催してきました。本年度からは高知県主催がなくなり、拠点病院と拠点病院に準じる病院がNPO高知緩和ケア協会と協力して、単位型での研修で行っています。

今回は2日間連続の厳しいスケジュールでした。参加医師は14名（院内から12名）、看護師9名、薬剤師1名という構成で、全ての医師が2日間の研修を修了し、看護師1名と薬剤師1名が、私用で一部参加できずに修了証書を渡せませんでした。

準備にあたり、外部の医師への周知が不十分であったことと、院外のコメディカルに対する周知を行わなかったことが反省点として考えられます。また、時間配分がうまく行かず、2日目は15分ほど延長してしまい、ご迷惑をおかけしました。反省点は来年度に活かして参ります。

参加者の皆さまには、総じて熱心に受講していただいたと感じています。コメディカルの方々も、事例検討やロールプレイにも特に支障はありませんでした。傾聴などは医師よりも看護師の方がうまいのかもしれませんが。

座学ではなく参加型の研修会であり、ワークショップやロールプレイは初めての方も多かったようです。始めは照れくさいような感じもあったようですが、最終的には和気あいあいとなり、他のグループの声で会話がしにくいくらいまで盛り上がりました。かなりの満足度を得られたようです。普段、話す機会のない医師や看護師がワークショップやロールプレイで話すことで、通常の業務を行うにも円滑になったようです。

来年は、院外の先生やコメディカルの方々に多く参加していただき、医療センターと院外の先生方や看護師、薬剤師などとの顔の見える関係を構築していきたいと考えています。

また、参加者からテストが気になってためらったというご意見もいただきました。テストは無記名で個人は同定しません。講義を受ける前後で、改善がみられたかという教える側の質を改善することを目的にしたものです。是非、来年度は院外の先生方やコメディカルの方々の多くのご参加をよろしくお願い申し上げます。

最後に、院内外からの講師・ファシリテーターと院内外からのファシリテーターをご紹介します。

(院内外からの講師・ファシリテーター(敬称略/50音順))

細木病院 緩和ケア病棟 安藤 徹
細木病院 心療内科・精神科 岡村 龍一郎
もみのき病院 緩和ケア病棟 神原 哲也
高知医療センター ペインクリニック科 青野 寛
高知医療センター 呼吸器外科 岡本 卓
高知医療センター 移植外科兼消化器外科・一般外科
澁谷 祐一
高知医療センター 緩和ケア内科 原 一平
高知医療センター 放射線科 森田 莊二郎

(院内外からのファシリテーター(敬称略))

高知厚生病院 緩和ケア病棟 山口 龍彦
高知大学医学部附属病院 神経精神科学教室
掛田 恭子
高知医療センター 血液内科 上村 由樹
高知医療センター 腫瘍内科 小林 和真
高知医療センター がん看護専門看護師
北添 可奈子

高知緩和ケア協会の事務担当、高知医療センターの事務担当の方には、研修会の運営ならびに資料準備など大変お世話になりました。深く感謝いたします。

(文責：緩和ケア内科 原 一平 医師)



ロールプレイワークショップでの原医師

研修プログラムの内容と研修風景：Day 1（9:30～18:10）

●プレテスト

まず研修会の前に無記名でテストを行いました。テストは講義の前後で受講者の理解度を改善することができたか、講義内容の質を確認するために行いました。

●緩和ケア概論 講師：高知医療センター 緩和ケア内科 原 一平 氏

「全人的な緩和ケアについての要点」についての講義を行いました。

●がん性疼痛 講師：高知医療センター ペインクリニック科 青野 寛 氏

「がん性疼痛の機序、評価及びWHO方式のがん性疼痛療法の機略について」と「がん性疼痛の治療法の実際」についての講義が行われました。

●がん性疼痛 高知医療センター 放射線科 森田 荘二郎 氏

「放射線治療や神経ブロックの適応を含めた専門的な緩和ケアへの依頼の要点」についての講義が行われました。



●アイスブレイキング

●疼痛事例検討 細木病院 緩和ケア病棟 安藤 徹 氏

「がん性疼痛を持つ患者の評価・治療」と「がん性疼痛に対する治療と実際の処方箋の記入」についてグループ演習及びワークショップが行われました。各グループに分かれて検討し、各グループ発表もされました。



●オピオイドを開始するとき もみのき病院 緩和ケア病棟 神原 哲也 氏

「医療用麻薬を処方するときの患者への説明の演習」としてロールプレイワークショップが行われました。



●ふりかえりとポストテスト



研修プログラムの内容と研修風景：Day 2（9:30～17:50）

●プレテスト

まず1日目同様、研修会の前に無記名でテストを行いました。

●地域医療連携と治療療養の選択・在宅緩和ケア

講師：高知医療センター 緩和ケア内科 原 一平 氏

「がん患者の療養場所の選択及び地域連携についての要点・在宅緩和ケア」についての講義を行いました。

●身体症状に対する緩和ケア（呼吸困難）

講師：高知医療センター 呼吸器外科 岡本 卓 氏

「呼吸困難などの身体症状に対する緩和ケア」についての講義が行われました。



●身体症状に対する緩和ケア（消化器症状）

高知医療センター 移植外科兼消化器外科・一般外科
澁谷 祐一 氏

「消化器症状などの身体症状に対する緩和ケア」についての講義が行われました。



●精神症状 細木病院 心療内科・精神科 岡村 龍一郎 氏

「不安、抑うつ及びせん妄などの精神症状に対する緩和ケア」についての講義が行われました。

●コミュニケーション講義

細木病院 心療内科・精神科 岡村 龍一郎 氏

「がん医療におけるコミュニケーション技術」についての講義が行われました。

●アイスブレイキング

●コミュニケーションのロールプレイ

細木病院 心療内科・精神科 岡村 龍一郎 氏

「患者への悪い知らせの伝え方についての検討及び演習」についてのロールプレイが行われました。



●ポストテスト



第3回高知医療センター緩和ケア研修会を開催して

緩和ケア内科 科長 原 一平 医師

緩和ケア内科の原一平と申します。今回の緩和ケア研修会の企画を担当させていただきました。講義では、「緩和ケア概論」、「地域連携と治療療養の場の選択・在宅緩和ケア」の2つを担当させていただきました。

地域連携について、少しお話をさせていただきます。緩和ケアでの地域連携は、患者さんやご家族の気持ちに添いながらも時間との戦いでもあります。講義では実際に経験した症例として、診療所の先生や訪問看護ステーションの看護師やケアマネージャーとの緊急の退院前のカンファレンスを行い、患者さんやご家族の希望に添い、当日に退院した事例を解説しました。在宅酸素の導入、ベッドやマットのレンタルも数時間で調整することができ、退院4日後にご自宅で穏やかに逝去されました。妻や子供や孫に囲まれて、ご自宅で旅立つことができました。1日遅れていたら家には帰れなかったと思います。

多職種の連携によって速やかな退院と在宅での受け入れが可能となり、今後、在宅への連携は増加すると考えます。地域医療連携室の役割がさらに重要になってきます。また、当然のことながら医療者同士の目に見える連

携も大切なことです。

次に症例を提示して、医師や看護師や薬剤師に「あなたならどのようなサポートを行っていいのか」を4～5人のグループで話し合ってもらい、発表していただきました。患者さんやご家族の希望に添う意見が多く出されました。最後に、高知県での地域のリソースについての説明を行い、講義を終了しました。

在宅療養支援診療所が増加する一方で、訪問看護ステーションが減少していることや、地域間でのリソースの格差が拡大しており、在宅を望んでも叶えられない地域も存在します。しかしながら、今後、在宅での療養は必ず増加します。皆さんに新しいリソースを作ってもらい、協力・支援をしていくことが公的な病院の役割と考えながら、今回の講義を企画しました。

来年は、さらに多くの方々と連携を深められる緩和ケア研修会を行っていきたく考えています。一度ご参加された方も、新しいプログラムに更新されていますので、是非、再度のご参加をお願い申し上げます。新鮮な楽しい研修会を目指して企画して参ります。

緩和ケアの今後の研修会予定

9月23日(金) 10:00～16:30 高知医療センター 2F やいろちようもしくははやなせすぎ

『平成23年度厚生労働省科学研究費補助金がん臨床研究事業

『緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究班』地域緩和ケア研修会

研修の対象は緩和ケアチーム及び緩和ケア病棟等の専門的緩和ケアに従事している関係者

現時点で高知県内の12施設が参加予定

10月1日(土) 14:40～17:20 高知医療センター2F くろしおホール

『第3回みんなで緩和ケアを考える会』

参加費：500円(当日徴収、事前申込不要)

一般講演：座長 高知医療センター 看護局 がん看護専門看護師 北添 可奈子 氏

演題①：「在宅ホスピスセンターについてのご紹介(医療と福祉の連携)」

講師：高知医療センター 緩和ケア内科 科長 原 一平 氏

演題②：「緩和ケア病棟での取り組み」

講師：医療法人五月会 須崎くろしお病院 看護部 塩見 千代子 氏

演題③：「在宅療養を支援する訪問看護」

講師：訪問看護ステーション なの花 がん看護専門看護師 弘末 美佐 氏

特別講演：座長 高知医療センター 緩和ケア内科 科長 原 一平 氏

「生活を支える医療につなぐ～貴方は、どこで、誰と過ごしたいですか?～」

講師：京都大学医学部附属病院 地域ネットワーク医療部 退院調整看護師 宇都宮 宏子 氏

お問い合わせ先：久光製薬株式会社 古賀直樹 電話：087(822)8170

(※詳細はP8のイベント情報をご覧ください。)

第41回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの職員はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第114回 日本小児科学会 学術集会 in 東京 2011.8.12～14

小児科 原田大輔 医師



会場前にて：原田大輔医師

2011年3月11日、東日本大震災がおきました。地震の規模は日本観測史上最大のマグニチュード9.0。テレビ画面で見ただけでも目を覆いたくなるような津波や火災が東北地方をおそいました。当院からも医療スタッフが広

A/H1N1について発表しました。当院では2009/2010年シーズンで2562例に迅速検査を行い、そのうち320症例に対して高知県衛生研究所での感染症サーベイランスでRT-PCR検査を施行していただきました。RT-PCR検査でインフルエンザA/H1N1と確定診断されたのは145例でした。今回の検討でわかったことは、①確定診断例のうち約70%が20歳未満の若年者であったこと、②発症から3時間を越えれば迅速検査の感度は80%以上あり検査として十分有用であること、③確定診断例ではインフルエンザ患者との接触歴が有意に多いことでした。迅速検査の感度は季節型インフルエンザが6～12時間以上で上昇することと比較すると、今後は発症後比較的早期の受診であっても迅速検査を施行する有用性があると考えています。来るべき冬のインフルエンザシーズンの診療のご参考になれば幸いです。

さて、夕方の空き時間を見つけてふらりと浅草へ散歩にでました。お盆の週末ということもあって仲見世商店街にも出店が加わり活気にあふれていました。浅草寺でお参りをして休んでいたら、ふと「江戸三十三観音霊場巡り」というポスターが目にとまりました。最近四国八十八ヶ所巡りはじめた私は興味がわいてきたのでつい朱印帳を購入してみました。ホテルに帰って調べてみると、江戸三十三観音霊場は江戸時代に「江戸」と呼ばれていた地域内の観音お遍路コースとのこと。学会終了後にフライトまで少し時間があつたので学会会場周辺の数箇所を訪れてみました。ビルや家々に囲まれているとはいえ落ち着いた境内を持つ寺や立派な梵鐘を持つ寺もあり、四国の寺とはまた違った良さを発見した気分でした。各寺院で今後の医学の発展を祈り、翌日から始まる日常業務と当直に備えて帰路につきました。



東京スカイツリーを携帯に必死に収めている原田医師

援に向かったことでした。

震災は全国各地の祭りやイベントにも多大なる影響を与えました。そして、4月に東京で予定されていた第114回小児科学会学術集会も例外ではありませんでした。盂蘭盆の8月12～14日に延期された小児科学会でしたが、実に盛会であり参加した私も多大なる刺激を受けました。当直明け・勤務後の私は東京へ向かう飛行機の中で熟睡し、12日の夜、一日遅れてむし暑い品川のホテルに到着しました。翌13日、移動するだけでも時間を要するくらい広い学会会場に到着しました。会場は数多くの小児科の先生方の熱気に包まれ、あちらこちらで小児医療に関する討論が聞こえてきました。私も普段なかなか会えないような著名な先生方の講演を拝聴したり、以前お世話になっていた上司や先輩・後輩の先生方と出会ってお互いの現状や今後の進路について意見交換ができたりと、大変充実した時間が持てました。

小児科のカバーする分野は多岐にわたります。一般演題の演題数はやはり身近な感染症が一番多く、循環器、血液・腫瘍と続きます。特徴的であったのはその次に多いのが精神・心身症と小児医療体制に関する演題ということでした。一方教育セミナーは全31題のうちインフルエンザ3題を含む10題が感染症、喘息4題を含む8題が免疫・アレルギー関連の演題でした。小児においてもアレルギーやメンタルの問題が増加し、医療体制の改革が必要とされている世相を反映しているのでしょうか。

私自身は2009年に経験した新型インフルエンザ



医療法人めばえ さとう循環器消化器科

〒781-5232 香南市野市町西野 587-15
 TEL : 0887 (57) 5311 FAX : 0887 (57) 5312
 URL : <http://www.kochi-web.com/hp1/satou/index.html>

(診療科)
 循環器内科、消化器内科、外科、呼吸器内科

(◆水・土は 16:00 まで、休診日：日・祝日)

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	●	●	●	●	●	●	×
14:00~18:00	●	●	◆	●	●	◆	×

医療法人めばえ さとう循環器消化器科は平成 13 年 11 月 2 日に開院しました。循環器を中心とした専門的な診療を行いつつ、地域のかかりつけ医としていろいろな疾患に対応しています。患者さんは 0 歳の予防接種から 100 歳の訪問診療と多種多様です。また、専門外の疾患や入院が必要な場合には、広いネットワークを利用して信頼のおける専門医や病院と連携をしています。(さ：さとう循環器消化器科、高：高知医療センター)

高：地域のかかりつけ医として大事にされていることはありますか？

さ：患者さんが病状を訴えないと、どんな名医も診断、治療できません。何でも相談できる環境にしていきたいです。

高：現在、貴院が力を入れられていることはどのようなことですか？



佐藤幸治院長（真ん中）とスタッフの方々



さ：循環器疾患の予防として、高血圧や高脂血症、糖尿病の管理に力を入れています。また、がんの早期発見のため、内視鏡や超音波検査を行っています。「木を見て森を見ず」という事がないよう、トータルな医療に力を入れています。

高：地域との連携や他医療機関との連携はいかがですか？

さ：無床診療所にとって、後方病院の存在は必要不可欠です。各種会合に積極的に参加して、病院の先生方との交流を深めています。

高：連携にあたって課題やお困りになることなどはございますか？

さ：医療センターの予約方法は秀れています。また、各医師の能力も高く、患者さんも満足しています。即入院が必要な患者さんの対応は大変であり、診療所医師共通の悩みと思います。何らかのシステム作りが望まれます。

高：今後、貴院が目指されることをお聞かせください。

さ：知識を積み重ねて、現代医療に遅れないよう努力したいです。この 10 年間は、公休日以外は休むことなく診療を続けてきました。今後、自分も健康に留意しながら良質な医療を地域住民の皆さんに提供したいと思います。

高：最後に高知医療センターとの連携についてお聞かせください。

さ：平成 21 年度には 39 名、22 年度には 38 名の患者さんを紹介させていただきました。そのうち、救急車で搬送した患者さんが 6 名います。重症患者さんが突然来院し、対応に苦慮することも稀ではありませんが、医療センターの存在は大きな心の支えになっています。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。

よさこい踊り@高知医療センター

にじ
 NEWS
 Vol.25

今年も高知の熱いお祭り「よさこい祭り」が 8 月 9 日～ 12 日に開催されました。うだるような暑さの中、高知医療センターにも 8 月 10 日にみさと幼稚園の踊り子さんが来て、かわいい踊りを披露してくれました。観客も多く元気いっぱいでした。また、8 月 11 日には、高知市役所チームと

NTT西日本高知支店チームが来訪し、高知市役所チームの正調踊り、そしてNTT西日本高知支店の大人数での迫力ある踊りに、高知医療センターでもよさこい祭りを満喫することができました。お越しいただいた皆様、ありがとうございました。



日 曜		高知医療センターイベント情報 ～9月～					
10	土	第19回地域医療連携研修会 （参加費無料、事前申込不要）					
		内容	病院内で問題となる多剤耐性菌について	講師	高知医療センター 検査診療部長・感染症科科长 福井 康雄 氏		
		内容	感染対策の基本と必要な追加対策について		高知医療センター 感染対策担当科長 感染管理認定看護師 西川 美千代 氏		
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	14：00～15：40	対象	医療従事者
お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室							
11	日	高新・高知医療センターがんセミナー～みんなが知りたいがんのこと～					
		内容	前立腺がんの診断と治療	講師	高知医療センター 泌尿器科 科長 小野 憲昭 氏		
		場所	高新文化教室（RKC高知放送南館4F）	時間	10：30～12：00	対象	一般（定員40名）
		主催：高知新聞社、高知医療センター 共催：アフラック高知支社 主管：高知新聞企業 お問い合わせ：高新文化教室 電話：088（825）4322（参加費：受講料¥9,600(12回分)一回の場合は¥1,500、事前申込要）					
13	火	第4回高知医療センター救命救急センターセミナー （参加費無料、事前申込不要）					
		内容	岩手県における次世代衛星通信「きずなWINDS」の東日本大震災後の活用事例について	講師	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙ミッション本部 衛生利用促進センター（SAPC） 富井 直弥 氏		
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	18：30～19：30	対象	医療従事者、消防・警察関係者
		お問い合わせ：高知医療センター救命救急センター					
14	水	高知医療センター集合研修 他施設公開研修 （参加費無料、事前申込要）					
		内容	こころのケア～せん妄状態の患者の看護～	講師	高知医療センター 看護局 精神看護専門看護師		
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	18：00～19：30	対象	看護職員（50名）
		お問い合わせ：高知医療センター 看護局 教育担当 FAX：088（837）6766					
10/1	土	第19回（平成23年度第2回）高知医療センターがん診療拠点病院公開講座・特別講演会 （参加費無料、事前申込不要）					
		内容	公開講座：悪性リンパ腫の診断と治療	講師	高知医療センター 総合診療部長兼血液内科・輸血科 科長 上村 由樹 氏		
		内容	特別講演会：多発性骨髄腫の診断と治療の進歩		徳島県立中央病院 内科医長 尾崎 修治 氏		
		場所	高新RKCホール（高知新聞放送会館 西館6F）	時間	14：00～16：00	対象	一般
お問い合わせ：高知医療センター 医事課							
10/1	土	第3回みんなで緩和ケアを考える会 （参加費500円（当日徴収）、事前申込不要）					
		内容	一般講演①：在宅ホスピスセンターについての紹介（医療と福祉の連携）	講師	高知医療センター 緩和ケア内科 科長 原 一平 氏		
			一般講演②：緩和ケア病棟での取り組み		医療法人五月会 須崎くろしお病院 看護部 塩見 千代子 氏		
			一般講演③：在宅療養を支援する訪問看護		訪問看護ステーション なの花 がん看護専門看護師 弘末 美佐 氏		
			特別講演：生活を支える医療につなぐ～貴方は、どこで、誰とすごしたいですか？～		京都大学医学部附属病院 地域ネットワーク医療部 退院調整看護師 宇都宮 宏子 氏		
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	14：40～17：20	対象	医療従事者
共催：みんなで緩和ケアを考える会、高知県病院薬剤師会、高知県訪問看護ステーション連絡協議会、高知県ホームヘルパー連絡協議会、久光製薬株式会社、協和発酵キリン株式会社 お問い合わせ：久光製薬株式会社 古賀直樹 電話：087（822）8170							

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

今年の夏はこのほか蒸し暑く、日中の体にまとわりつくような熱気に圧倒されています。そんな中にも、せみの声や朝夕の風に秋の気配を感じ始めました。医療センターで患者さんのご意見等をお聞きして6年目になりました。今も私の初心である「もし、この患者さんが自分の家族だったら・・・」との思いでご意見を伺っております。以前と比較すると、ご意見や苦情の件数は少なくなりましたが、なかなか解消できない事例もあります。それは、外来診療の予約時間に対して待ち時間が長いのご意見です。医師をはじめ、医療センターのスタッフは患者さんにできるだけスムーズに診療を受けていただきたいと思い、努力しておりますが、患者数も増え解消されない状況です。待ち時間は永遠のテーマとなっております。どうぞご理解ご協力をお願いいたします。（まごころ窓口 重軒）



平成23年9月1日発行
にじ 9月号（第71号）
責任者：堀見 忠司
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印刷：共和印刷株式会社
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター

〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL：088（837）3000（代）